ミンタラ

アイヌ語で「広場」の意味

文　北原次郎太　　絵　小笠原小夜

テーマ　狩りと冬の装い

今のアイヌ民族は、ほかの日本人と同じ仕事をしている人がほとんどです。しかし、明治・大正時代ごろまでは狩りが大切な仕事でした。動物は食べ物になるばかりでなく、服や身の回りの道具を作る材料になります。毛皮やクマの胆のう、ワシの羽などは本州や中国のいろいろな民族と交易をするときのチホキ（商品）でもありました。

雪に包まれた冬の山は、夏の山とは別世界です。木の葉が散り、ササも雪の下に入って、遠くのものまでよく見えます。よく晴れた日は、月明かりを雪が反射し、夜でもかなりものが見えます。岩場や斜面も雪におおわれていて、けがの心配も少なくなります。

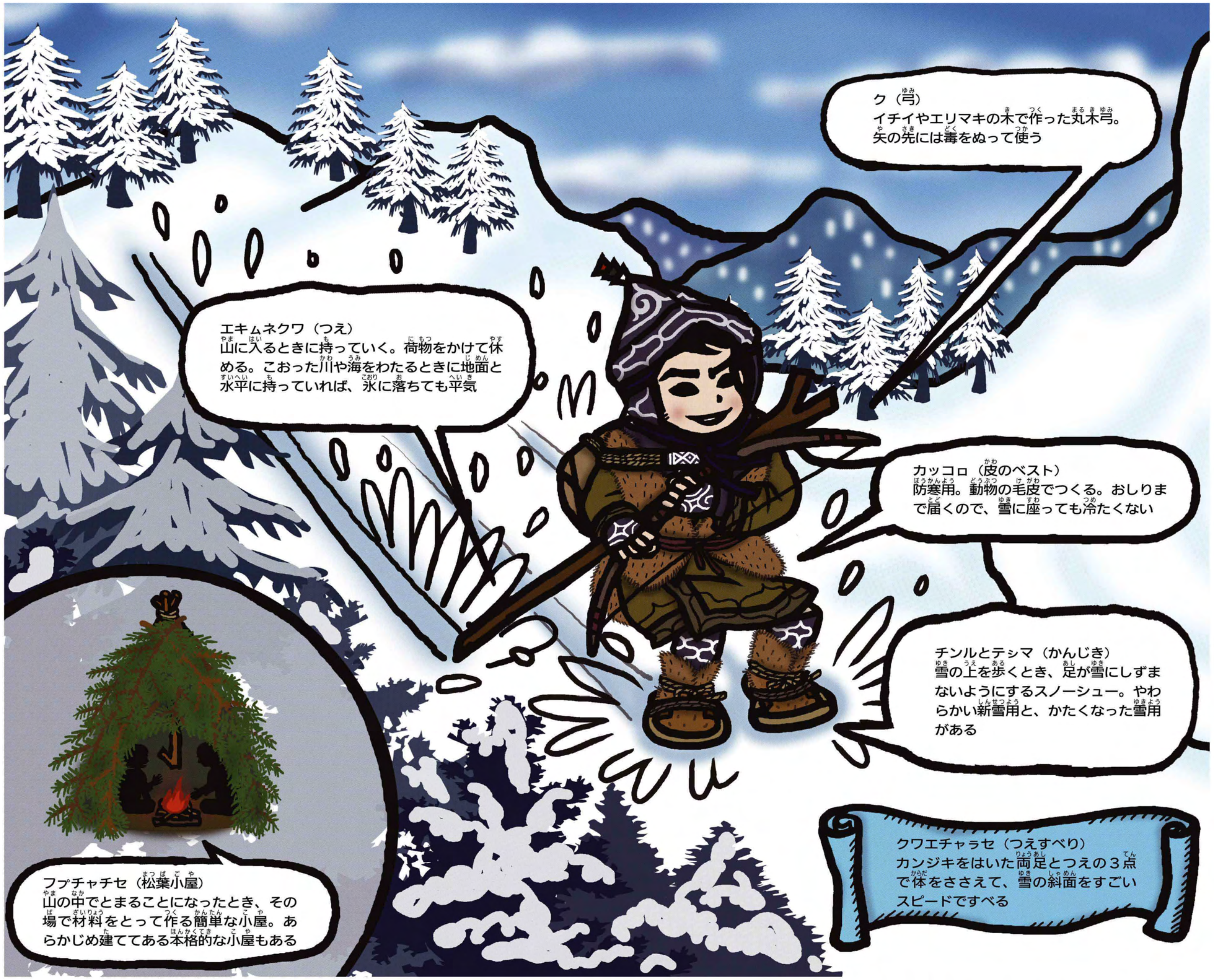
とはいえ、山に入るには準備が必要です。毛皮で作ったベストやくつを身につけ、雪に足がしずまないようにカンジキをはきます。カンジキとつえを使って、斜面をすべるクワエチャラセという技術があります（右のイラスト）。

胆振管内白老町のある男性は、札幌の定山渓あたりまで、釧路市春採のある男性は雄阿寒岳の中腹まで狩りに行ったそうです。大変なきょりですね。近くなら日帰りのこともありますが、遠くまで行くときは1週間、あるいはもっと長く山で寝泊まりして狩りをしたといいます。いつも山を歩いて地形をよく知っていること、寒さ対策やいざというときの食べ物の準備をしっかりしていくことで、そういうことができるのです。

山はカムイ（神）たちの世界。山に入るときこそ身なりを整える人もいます。ある男性は、山に持っていくナイフは彫刻できれいに飾ると言っていました。別の男性は背広の上から弾のついたベルトをしめ、ライフルをかついで山に入りました。そして獲物の動物においのりとお供えをし、たましいを神の世界へ送り返したそうです。

「狩りと冬の装い」の動画がどうしん電子版で見られます。スマートフォンを持っている人はＱＲコードから読みこんでください。

（協力・北海道博物館）



ク（弓）
イチイやエリマキの木で作った丸木弓。矢の先には毒をぬって使う

エキムネクワ（つえ）
山に入るときに持っていく。荷物をかけて休める。こおった川や海をわたるときに地面と水平に持っていれば、氷に落ちても平気

カッコロ（皮のベスト）
防寒用。動物の毛皮でつくる。おしりまで届くので、雪に座っても冷たくない

チンルとテシマ（かんじき）
雪の上を歩くとき、足が雪にしずまないようにするスノーシュー。やわらかい新雪用と、かたくなった雪用がある

クワエチャラセ（つえすべり）
カンジキをはいた両足とつえの３点で体をささえて、雪の斜面をすごいスピードですべる

フプチャチセ（松葉小屋）
山の中でとまることになったとき、その場で材料をとって作る簡単な小屋。あらかじめ建ててある本格的な小屋もある

アイヌ語の発音ガイド

小さいク　舌がのどのおくをふさぐようにして止める
小さいシ　弱く短く発音する
小さいツ　舌の先を前歯のうらにつけて止める
小さいプ　くちびるを閉じて止める
小さいム　くちびるを閉じて止める
小さいラ、リ、ル、レ、ロ　日本語の五十音のラ行ににているが、弱く短く発音する
小さいハ、フ、ヘ、ホ　軽く息をはく

クイズの答え

①えんがるちょう　インカラ（見わたす）・ウシ（ところ）。大きな岩の上が見張り台の役割を果たしてきた②もいわやま　モ（小さい）・イワ（山）。これも見張り台として使われた③らっこ　むかしラッコが回遊してきたことによる。今では日本中で知られている言葉も、もとはアイヌ語。地名の意味にはいろいろな考え方があり、ここでは「北海道の地名」（著者・山田秀三、発行・草風館）を参考にしています

ヘカチ　マッネカチ

藤戸雄太さん（小6）＝釧路市

弁論大会で最優秀賞に

—こんにちは。学校では何が楽しいですか。

体育でサッカーをしたり、プールで泳いだりすることが楽しいです。理科の実験で鉄を塩酸にとかす実験をして、それも楽しかったです。

—勉強以外で好きなことはありますか。

読書が好きです。少し前に「ぼくらの太平洋戦争」という本を読みました。カードゲームも好きです。スノーボードとかスキーとか冬のスポーツも。

—昨年12月の「アイヌ語弁論大会」で、ひいひいおばあさんにあたる藤戸タケさんの歌を歌って、最優秀賞でした。「タケさんの歌を思い出した」と感激している方がいましたね。

弁論大会は、友達に聞いて知りました。大会でアイヌ語を使うことで、アイヌ語を未来に伝えられる、消えないで続いていってほしいと思って参加しました。

—アイヌ語を伝えたいと思った理由は何ですか。

「君の名は。」の小説で、地元のおどりを「なくしちゃいけない」と言っている人がいました。自分の身のまわりでいったら、それはアイヌ語だと思いました。

—アイヌ語は、だれから教わっていますか。

日高管内様似町の大野徹人先生です。歌は録音を聞いておぼえました。音程をいろいろと変えるところを聞いて、やってみたいと思いました。タケおばあちゃんが旭川の人だというのは、大野先生から聞いて知りました。おどりだと、弓のまいとか刀のまいとか。キツネのおどりと輪おどりもやったことがあります。阿寒アイヌ協会の松田健治さんが教えてくれました。

—もうすぐ中学校に進学しますね。将来はどんな仕事をしたいですか。

薬剤師です。人を治す仕事をしたくて。薬剤師は手術で血を見なくていいから。

—なるほど。この記事の読者に伝えたいことは。

おたがいに夢をもって、それを実現できるようにがんばっていきましょう。

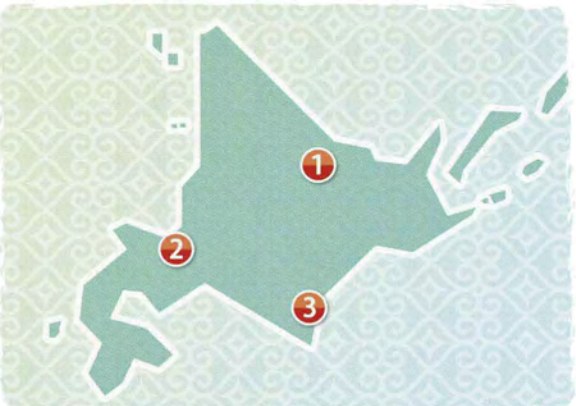
◇

「ヘカチマッネカチ」は「男の子　女の子」の意味です。若いアイヌの人にインタビューするコーナーです。

クイズ

道内には、アイヌ語が基になった地名がたくさんあるよ。いくつ読めるかな。

①オホーツク管内遠軽町
②藻岩山（札幌市）
③十勝管内広尾町楽古



答えはこのページの右側に

読む　聞く　話す

アル　エトコ　アル　オカケ

チョイランケ　コラチ　イソンアン

私の通る先、通る後に、えものがふってくるように、猟が豊かになった

えものがたくさんとれることをアイヌ語でイソンといい、狩りが上手な人をイソンクルとよびます。イソンクルになる人は、普段からカムイを大切にし、カムイに好かれている人だといわれます。ですから、暮らしが豊かであるだけでなく、心も豊かであることが大切です。この言葉は昔話の中でよく使われる言い方で、カムイに守られた主人公が幸せに暮らすようすです。

音声を聞くことができます。スマートフォンを持っている人はＱＲコードから読みこんでください。